

野上裕生 著

すぐに役立つ開発指標のはなし

アジア経済研究所



野上裕生氏（2008年撮影）

■ 目 次 ■

序章 開発指標とは何か ————— 1

第1部 開発の成果を測るには 9

第1章 「豊かさ」とは何か ——— 人間開発指数 (HDI) (1) ——— 10

第2章 もっと意味のある指標に ——— 人間開発指数 (2) ——— 18

第3章 男女不平等を測る ——— ジェンダー開発指数 (GDI) ——— 26

第4章 いろいろな「識字」 ——— 識字率 ——— 33

第5章 健康と障害の測り方 ——— 障害調整生存年 (DALY) ——— 39

第6章 「幸せ」という価値観に経済学が挑む ——— 国民総幸福 (GNH) ——— 47

第2部 貧困と不平等を測るには

- 第7章 「貧しさ」の多面性 — 貧困指標(1) — 56
- 第8章 プロ・プア・グロースを検証する — 貧困指標(2) — 63
- 第9章 社会の憂鬱さを測る — 不平等指標とジニ係数 — 70
- 第10章 注目される「分極化」 — 地域格差の指標 — 77

第3部 所得と競争力を測るには

- 第11章 経済指標の代表格 — 国内総生産(GDP) — 88
- 第12章 物価が安ければたくさん買える — 購買力平価(PPP) — 96
- 第13章 生産性を比較するには — 全要素生産性(TFP) — 102

第14章 国際競争力を測る ——— 競争力指数 ——— 109

第15章 客観的なデータ、主観的な判断 ——— ガバナンス指標 ——— 117

第16章 「真の貯蓄」が示すもの ——— 持続可能な発展 ——— 124

第17章 「開発途上」とは ——— 後発開発途上国(LDCs)の指標 ——— 131

第4部 貿易と資本移動を測るには 139

第18章 貿易の測り方 ——— 貿易の指標 ——— 140

第19章 輸入価格が上がると ——— 交易条件 ——— 148

第20章 金融の発展度を測る ——— 金融深化指標と通貨発行益 ——— 155

第21章 債務を返済できるか ——— 債務の指標 ——— 163

第22章 やさしい援助、役立つ国際協力 ——— グラントエレメント(GE)と開発貢献指数 ——— 170

終章 開発指標から開発統計学へ

177

補章 野上裕生 — 知の軌跡

185

インタビュー

186

あとがき 山形辰史

207

業績目録

240



キャッサバから主食のシクワングを作る女性
(コンゴ共和国、撮影：武内進一)

第 1 部

開発の成果を
測るには



オアハカ州ミヘ地区の寄宿制小学校の給食時間
(メキシコ、1981年、撮影：米村明夫)

第 2 部

貧困と不平等を 測るには



日本向け衣類を生産している縫製工場
(バングラデシュ、2008年、撮影：山形辰史)

第3部

所得と競争力を 測るには



ヤンゴン近郊のティラワ港。日本の協力で経済特区として開発が進む
(ミャンマー、2010年、撮影：工藤年博)

第4部

貿易と資本移動を 測るには

著者紹介

の がみひろ き
野上裕生

1961年生、2012年没。

経歴 1984年、一橋大学社会学部卒。同年、アジア経済研究所入所。統計部（後の統計調査部）に所属し、アジア諸国の景気予測を担当。1992年4月より1994年3月まで、一橋大学大学院経済学研究科で学び、経済学修士号を取得。逝去の直前は、日本貿易振興機構アジア経済研究所開発研究センター主任調査研究員。同研究所開発スクール教授。

業績 （著書）『開発経済学のアイデンティティ』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2004年。『人間開発の政治経済学』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2007年。（編著）『テキストブック開発経済学』有斐閣、1997年（共編者：朽木昭文・山形辰史）。（訳書）アマルティア・セン『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店、1999年（共訳者：池本幸生・佐藤仁）。（論文）「アマルティア・センへの招待—基本概念を中心にして—」（絵所秀紀・山崎幸治編『アマルティア・センの世界—経済学と開発研究の架橋—』晃洋書房、2004年）序章など。

すぐに役立つ開発指標のはなし

アジアを見る眼116

2013年5月21日発行

定価： 本体1200円 + 税

著者 の がみひろ き
野上裕生

発行所 **アジア経済研究所**
独立行政法人日本貿易振興機構
千葉市美浜区若葉3丁目2番2 ㊦ 261-8545
研究支援部 電話 043(299)9735(販売)
FAX 043(299)9736(販売)

E-mail: syuppan@ide.go.jp <http://www.ide.go.jp>
印刷所 岩橋印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

無断転載を禁ず

©日本貿易振興機構アジア経済研究所 2013

ISBN 978-4-258-05116-8

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には、幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにあり、これらの新興国はそれぞれの立場に立って、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的である」という。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考へる場合、在来流行の理解によるパターンを以てするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考へられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立つていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最も大きな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサビスをいたそうとするに尽きる。設立以來すでに七カ年余り、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはしない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たりうることを目標とするものである。

一九六六年三月